



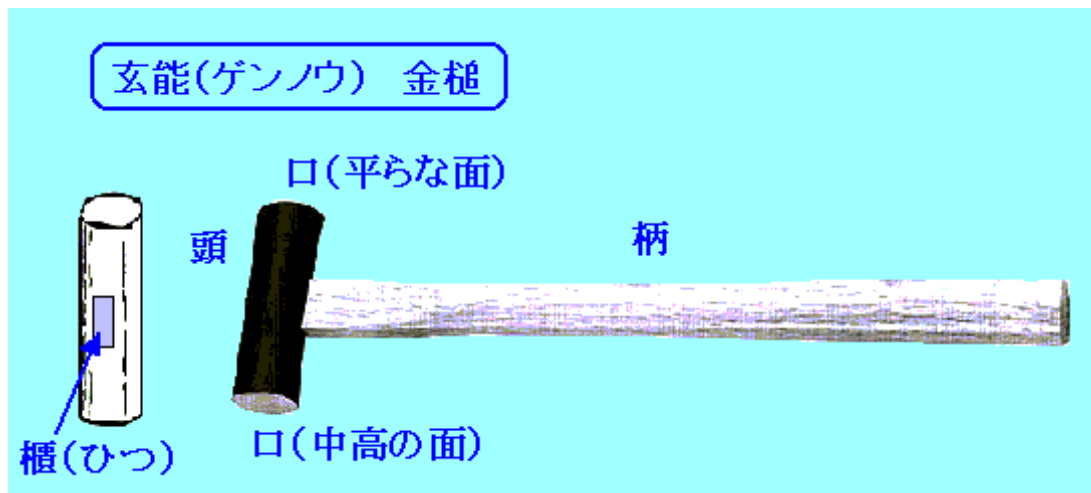
## 玄能(ゲンノウ)

ゲンノウという名のいわれが面白い。昔、玄翁という高徳の禅僧がいました。そのころ那須野ヶ原に殺生石という怪石があって、この上を飛ぶ鳥は落ち、これに触れる獣はたちどころに斃(たお)れた。そこで玄翁和尚が呪文(じゅもん)を唱えてして大鉄槌(鋒)でこの石を砕いたら、その怪異はとまった。これから玄翁という呼び方が始まりました。

ゲンノウは主としてノミの叩き込みに使われる道具です。道具にやかましい昔の大工さんは、以下の4種をそろえていました。

- 大ゲンノウ (頭の鉄の部分の目方300匁、250グラム、大仕事用)
- ゲンノウ (100匁、375グラム。10匁おきくらいに目方がふえる。ノミの荒仕事用)
- 中ゲンノウ (70~80匁、260~300グラム、見習大工用)
- 小ゲンノウ (50~60匁、180~240グラム、造作・建具あるいは大釘打ち込み用)

その重量が比較的こまかく変化しているのは、たとえ10匁、(37.5グラム)のわずかの差でも、一日中それをふるって仕事をするときは決定的な違いとなつてあらわれるからです。ふだん100匁のゲンノウを使い馴れている人が、急に110匁のゲンノウをもったら、とうてい一日仕事を続けられないと言います。人と道具の、きびしく、また微妙な関連がこうしたところにもあらわれてます。見習中の者に中ゲンノウを使わせるのも、体力や技能がそれにふさわしいからです。



### 参考図書

大工道具の歴史 村松貞次郎 岩波新書 1998年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>  
 e-mail [ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!